

## 第 92 回 学長選考・監察会議議事概要

- 1 日 時 令和 5 年 8 月 17 日（木）16 時 00 分～16 時 47 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 三輪委員，伊藤委員，佐久間委員，森委員，  
柴田委員，鈴木委員，染矢委員，富田委員，小野寺委員 以上 9 名  
\*欠席者：小田委員  
\*オブザーバー：逸見監事

### 4 議事概要の確認

第 90 回及び第 91 回学長選考・監察会議議事概要が確認され，承認された。

### 5 議事

#### (1) 学長候補者の選定について

議長から，学長候補者の選定について，第 91 回学長選考・監察会議において，学長選考基準 10 に定める再任の特例を適用し，牛木辰男学長を学長選考候補者とする事が確定していることから，本日は，牛木学長選考候補者との面談を実施し，学長候補者の選定について審議する旨の説明があった。

次いで，議長から，面談の進め方について，質疑応答を中心として 20 分から 30 分程度行うこととし，始めに議長から学長選考基準 9 の趣旨に沿った質問を 2 問行い，その後，各委員から質問を行う形で進めたい旨の提案があり，承認された後，牛木学長選考候補者の面談が行われた。

面談終了後，学長選考基準 9 に基づき，過去の実績，所信書及び面談の結果を踏まえて学長候補者の選定について審議が行われ，牛木学長選考候補者が学長候補者に選定された。また，議長から牛木学長選考候補者に審議結果を伝える事が確認された。

その後，学長選考基準細目 17 に基づき，学長候補者の選定の報告及び公示について審議が行われ，議長から，所定の様式（別記様式第 21 号：学長報告，別記様式第 22 号：学内掲示及び大学ホームページ掲載）の取りまとめ方法について，「学長候補者の氏名」，「選考を行った日」及び「選考の過程」については，事実関係を書き連ねる事項であることから議長に一任願うこととし，「選定理由」については，議長が「所信書」及び「学長在任 3 年間の業績評

価」等を基に作成したたたき台を提示し審議いただく形で進めたい旨の提案があり、承認された。

次いで、議長から提示されたたたき台を基に選定理由について審議が行われ、たたき台の内容について修正等の意見がなかったことから、当該内容をもって選定理由とすること及び文言整理等の軽微な修正を行う必要が生じた場合は議長に一任することが承認された。

また、議長が所定様式の最終的な記載内容を取りまとめ、その後、学長への報告並びに学内掲示及び大学ホームページの掲載を行うこと及び公示文書（別記様式第 22 号）の学内掲示及び大学ホームページの掲載期間を令和 6 年 1 月 31 日までとすることが併せて承認された。

最後に、議長から、学長候補者の選定を受けて近日中に大学からプレスリリースが行われる予定であり、その際、学長選考・監察会議の委員名簿が公表されることについて了承願いたいこと及び報道機関対応については総務部総務課が行うこととしており、各委員に報道機関から問合せがあった場合は総務課へ連絡するよう指示願いたい旨の依頼があった。

(主な意見及び質疑等 ○：委員の発言， ■：牛木学長選考候補者の発言)

- ・新潟大学の質と社会的評価を向上させるためには、INPUT（優秀な学生を獲得すること）、PROCESS（質の高い研究と教育を提供すること）、OUTPUT（優良な就職先を増やすこと）の強化が重要である。今後、特に優秀な学生を獲得するための戦略と実行が強く求められると考えるがいかがか。
- ・新潟県外に出て行く優秀な学生をいかに引き留めるか、新潟県外の優秀な学生をいかに引き込めるかの戦略を考えなければならないと思っている。新潟県内については、近年、子供たちの科学の芽を育てることを目的として、小中学生を対象とする新潟ジュニアドクター育成塾を実施している。現在、その先の高校生を育てる後継の取組を考えているところであり、今後、優秀な子供たちを育てる取組を進める必要性を感じている。また、コロナ禍において、国際化がかなり後ろ向きになっていると感じており、海外の優秀な学生を新潟大学に取り込むことに相当力を入れる必要があると考えている。
- ・社会との共創を進める上で、新潟大学が新潟に在る意味をしっかりと捉える必要があると考える。リカレント教育を考える際、新潟の企業にどのようなニーズがあるのか、新潟の企業が日本の中で存在意義を見

出すための強みや新潟地域の強みを把握しなければ、新潟大学らしい魅力あるプログラムを作れないのではないかと思う。

- ・社会との共創については、三つの視点を活かして進めることになると考えている。一つ目は「自治体に対してのアプローチ」であり、一例として、佐渡市と連携して佐渡にサテライトオフィスを設置し、そこを中心に自然だけでなく医療、産学連携等を進められる環境づくりをどう整えるかといったことを始めている。二つ目は「企業や職種に対してのアプローチ」であり、建設業の小野組と連携してリカレント教育の共同教育講座の設置を行うなど、いろいろな場面を通じて、企業のニーズや課題等を汲み取り、どのような後押しを行えるのかを考えて取組を進めている。三つ目は「物に対してのアプローチ」であり、例えば米や酒に関して、日本酒学の取組や暑さに強いコシヒカリ NU1号の開発などにより共創を進めている。
- ・新潟県は日本国内における課題先進地域であると思われる。それらの課題の解決に向けて、新しいアプローチができるの良いのではないかと考えている。
- ・新潟市が抱える課題として人口減少や中心部の衰退などがある。そういったところに新潟大学が踏み込んでいき、学生の参画によるアプローチを進めるなどして、今後取り組んでいきたいと考えている。

## (2) その他

議長から、学長選考・監察会議の次回開催日について、当初予定の令和5年9月22日(金)の開催を取り止め、11月29日(水)午後4時頃から1時間程度開催することとしたい旨の提案があり、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・なし